

サシバと聞いてまず何を連想するだろうか。おそらくたいいてい人は「差し歯」のことを考えると思う。昔、学生の時サシバの調査をしていますと言ったら「差し歯の調査」と思った人が実際に何人もいたほどだ。サシバはオオタカと違って知名度が低く、それが猛禽類の一種であると

答えられる人はなかなかの生物通であると言ってもよい。

サシバはワシタカ科に属し、夏鳥として本州以南に渡来する。主に里山と呼ばれるような低山の丘陵地に生息し、カエルやヘビ、カマキリ等、両生類、八虫類、昆虫類を主に採餌する。

6月に千葉でオオタカの定点調査をしていたところ、1羽のサシバが「ピックイー」と鳴きながら飛んできて、前方にあるスギの頂上にとまった。肝心のオオタカが出現せず退屈していたので、しばらく観察することにした。おそらく雌である個体は、そのままじっとしている。しばらくしてこんどは雄のサシバが「ピックイー」と何度も鳴きながら飛んできて、雌の周囲を飛んだあと同じ木にとまり、口にくわえていたアマガエルを雌にプレゼントした。求愛給餌と言われよく人間界にも見られる。この2羽がペアとなって繁殖行動を行うのは間違いないと確信し、あとは繁殖が成功してくれることをいのりつつ、肝心のオオタカは見られないまま現場を去ることになった。

オオタカとサシバは生息環境が似ているところがあり、オオタカの調査にいくとサシバを見ることが多い。それゆえオオタカとサシバはよく比較される。アセスメント分野では、絶滅危急種のオオタ



サシバ(写真出典:山と渓谷社「日本の野鳥」)

ある日のフィールド・ノートから

時代の波に...

カは言わずと知れたスターでちやほやされ重要視されているが、普通種のサシバは脇役扱いでまったく無視されることもある。分布域についてはどうか。オオタカはドバトを狙って徐々に都市化する傾向にあるが、サシバはカエルやヘビが多数住む里山から離れることが出来ない。つまりサシバは時代の波に取り残されてしまったのである。さらに水田の減少、里山の開発と共に生息域が減少している。また冬を過ごすフィリピン等東南アジアの国々でも熱帯雨林の伐採により、生活できる環境が失われている。というわけでサシバの未来は決して明るくはない。取り巻く環境はますます悪化しており、数は確実に減少している。

サシバについての有効的な保護政策はまだない。しかし近年、里山自然を見直す運動が高まっており、その里山を象徴する動物としてサシバがにわかに脚光をあびはじめている。

8月、また同じ千葉の現場で無事に育ったサシバの親子を見た。親鳥の羽根

9月2日NHKでサシバの特集が放映されました。
「生きもの地球紀行」
～茨城県筑波山ろく・里山に生きるタカ、サシバ～

は子育てでボロボロになっているが幼鳥は真新しい羽根をつけ元気に飛び回っている。そして親鳥とともに上空を家族が仲良く帆翔していた。千葉のなだらかな里山や谷津を背

景にして何羽ものサシバが帆翔しているのは美しく、しばらく見とれてしまった。10月にもなればこの光景は数十羽、数百羽にもなり、群れて南を目指して渡っていくのが見られる。それはいつ見ても感動する光景である。

オオタカの後ろにかくれて陰の薄いサシバだが、この時ばかりは全国のパーダーの注目をあびてスターになる瞬間である。しかし、このまま環境破壊が続けば、あと数年もすると大規模な渡りは見られなくなるかもしれないので、見えない人は今のうちに見ておくことを勧めしておく。この美しい光景がいつまでも見られるよう何らかの保護政策が打ち出されることを望む。

里山にてサシバをみたら、それはヘビ、カエル、昆虫等が多く住める良い環境であることを示している。「なーんだサシバか」とは言わずによく考えてみよう。

(本社自然環境調査室・平川正詩)

はんしょう
*帆翔: 気流を利用してはばたかずに飛ぶこと。ワシタカ類などは上昇気流を利用して輪をえがいたりする。

(参考文献:財 日本野鳥の会「フィールドガイド日本の野鳥」)

つい最近、鳴く虫(コオロギ、キリギリス等)が鳴いている姿を野外で見つけるという技を体得したので紹介したいと思う。とにかく音を頼りに鳴いている場所の見当をつける。・鳴いている時に音のする方へそっと動く。(鳴いていない時は動かぬこと。草をかき分けるのも鳴いている時に。)ここら辺だという場所を見つけたら地面に膝をしっかりとついて、声を頼りにとにかく目を皿のようにしてさがすべし。1時間くらい草や地面にとらめっこを続けていると、突然いろんな虫の姿が見えてくるので是非一度お試しを。(本社企画室・中村兼吉)

なつかしい匂いがするな...とぼんやり感じながら歩いていて、ふっと焦点(嗅点?)が合った。金木犀だった。幸いこの香りの芳香剤を使ったことがないので秋の訪れとして楽しめる。季節の変わり目が好きだ。どの季節もめぐるとにあってうれしいと思う。秋は特にそう思わせるものが多い。空の色とか枯れ葉の匂い、長袖、ふとんのおもさのこちよさ、夜の空気...。(本社企画室・南谷佳世)

【発行】.....株式会社地域環境計画

編集 南谷佳世・中村兼吉にしむら・西邑恵子

東京本社

〒154東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル

TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701

営業窓口.....逸見一郎

大阪支社

〒569-11大阪府高槻市古曽部町1-1-8

TEL 0726-84-3182 / FAX 0726-84-3184

営業窓口.....中山香代子・津田洋子